

8月27日(火)金沢ニューグランドホテルホ5階「銀扇」にて第1420回例会が開催されました。会長挨拶では夏の甲子園にて星稜高校が準優勝と大活躍をし、小川Lも応援で大変でしたでしょうか、おめでとうございます。星稜高校に感謝すると共に感動をありがとう。思い出の空飛ぶランドセル贈呈式では北川L・中山Lと3名でバンコックへ行って参りました。本日のメンバースピーチをして頂く荒木Lとは8月2日の戦没者慰霊祭、8月15日の戦没者追悼慰霊祭で一緒しましたが、ご縁を感じました。今年5月より趣味として唄いを習い始め、先日デビュー致しました。今後頑張って練習に励んで参りますとご挨拶がありました。

「ランドセル事業 タイ訪問レポート」 L.中山恭一
8/20 プラティープ財団本部でのランドセル贈呈式は、園児による歓迎のアトラクションを披露していただきました。その後、大垣東中学校の生徒からのビデオメッセージを放映し、斎藤会長の司会進行のもと、ランドセルの贈呈式が始まった。



最初に野村会長が「園児のダンスでのおもてなし、ありがとうございました。また、当ランドセル事業に尽力された関係者の方にもお礼申し上げます。ありがとうございました。日本の子どもたちが6年間、大切に使ってきた、たくさんの思い出のつまったランドセルに、今度はこちらにいる園児、学生の皆さんが、夢を入れ、その夢が実現できるように勉強に励んでください。そして、



みなさんの心のタネが将来すばらしい花を咲かせ、このすばらしいタイの国を盛りたてていくことを願っています」と野村会長よりの激励の言葉が送られた。また山田社長(未来工業)からの挨拶があった。

ランドセルは500以上あったが、参加者全員で、それ

ら一つ一つ、園児一人一人に手渡しした。使い方がわからないながらも、うれしそうにランドセルを逆さまにして背負う子供の笑顔が印象的で、皆大変喜んで受け取ってくれた。大垣東中学校の生徒が代表し、鳴和中学校生徒からの手紙をはじめ、手作りのメッセージカードを紹介し、皆で記念撮影をしたあと、ランドセルを背負っ



たタイの園児、小学生一人一人にお別れのハイタッチをして、見送った。午前中にはバンコクを中心を流れるチャオプラヤ川沿い、クロントイというスラム地区にあるプラティープ財団の本部を訪問。まずは同財団が運営している幼稚園を見学させていただいた。見学の際、国語や算数の教材を使って園児と一緒に遊び、給食の配膳を手伝わせていただいた。園児たちは、皆活き活きとしており、同財団の事業の素晴らしさがよくわかった。

参加者：金沢東 LC3 名、大垣 LC3 名、大垣東中学校教員 2 名、生徒 2 名、未来工業 山田社長、ピースレインボー真部氏、もったいないジャパン山本氏、CHANG(アジアの子供財団)斎藤会長、後藤夫妻計 16 名

「メンバースピーチ」 L.荒木博文

私は元々木島病院・エム21に勤務、リハビリテーションの仕事をしておりました。

ご縁があり、40歳の時馳浩代議士から誘われて、畑違いで政治に無縁



でしたが秘書に転職しました。秘書になってからは自分にとって雲の上の人との付き合いが始まった感じでした。馳代議士は一言でいうと弱者の味方です。いじめ対策等、心・体が弱った人に寄り添う、その様な仕事が出来て誇りをもっていました。秘書という仕事も根本的には一緒であり、弱者に寄り添い向き合う仕事は同じだと考えています。

春の統一地方選挙に市議会議員として当選致しましたが、選挙とは一人では何もできない、仲間がいるから戦える事を学びました。クラブのメンバーにも大変お世話になりました。市議会議員は秘書とは真逆です。守るべきものは守る、背骨の通った国につくり直す意気込みです。8月15日終戦記念日に戦没者追悼式典に出席しましたが、両親・家族・先人に感謝の気持ちで一杯でした。広島、長崎の原爆投下、改めて戦争の悲惨さを思い、先人に感謝するものです。寺西Lには選挙後援会会長を務めて頂き感謝致します。普段からユーモラスでひょうきんな面がありますが、一面、喜怒哀楽をもって赤裸々にお話出来る様に見習いたい。皆様方ご指導下さい。

